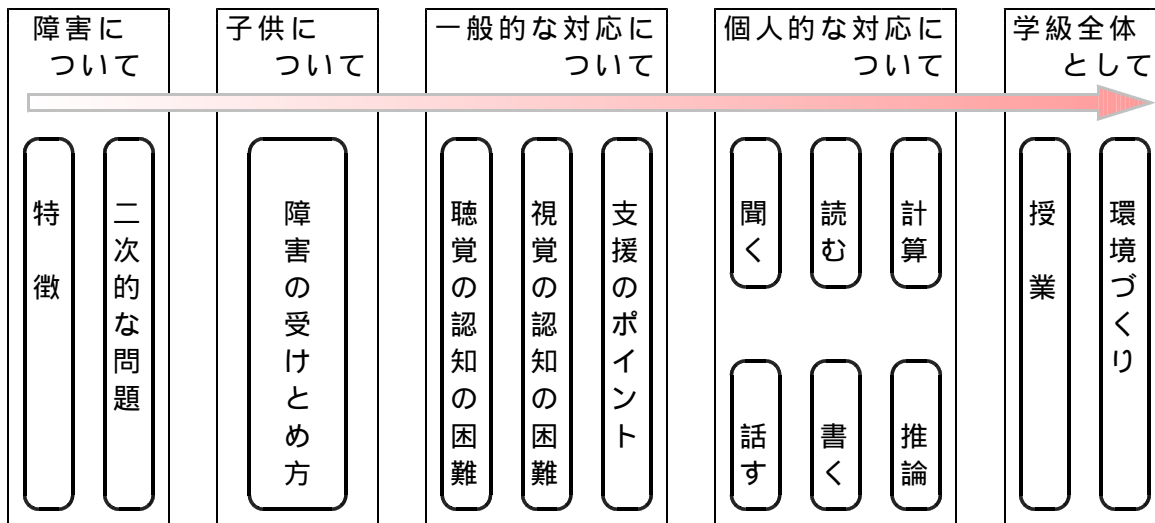


【LDに関するQ & A】

「Q & A」の流れ



「Q & A」

Q 1 . LD の子供には、どんな特徴が見られますか？

A . 全般的に知的な遅れがあるわけではありません。しかし、以下のような学習上のつまずきや困難を示すことがあります。

障
害
に
つ
い
て

聞
く

- ・話や指示は聞こえているが、正確に聞き取ることが困難である。
- ・話や指示した事の意味を取り違えてしまう。
- ・今聞いたばかりのことをすぐに聞き返す。



話
す

- ・話が一方的になったり、話し出すと止まらない。
- ・状況の説明ができなかったり、質問に対して的外れの答え方をしたりする。
- ・自分の思いや考えをまとめて話すことができない。



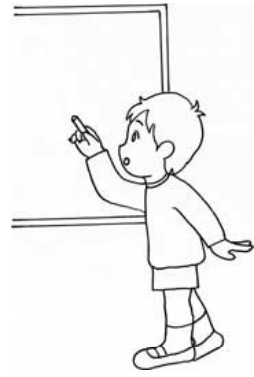
読
む

- ・文字の読みが定着しにくい。似た形の文字の区別が難しい。
- ・本を読む時にたどたどしい読み方をしたり文字や行をとばしたりして読む。
- ・文章が読めても登場人物の心情が読み取れない。

障
害
に

書
く

- ・文字が読めるのに正しく書けない。鏡文字が目立つ。
- ・マス目の大きさに合わせて書くことが苦手。行を揃えて書けない。
- ・平仮名や漢字の細かい部分を間違っ
て書く。作文や日記が書けない。



計
算

- ・計算の手順が分からない。数字や位取りを揃えて計算できない。
- ・指を使っての計算から抜け出せない。
- ・九九がなかなか覚えられず、唱えられない。



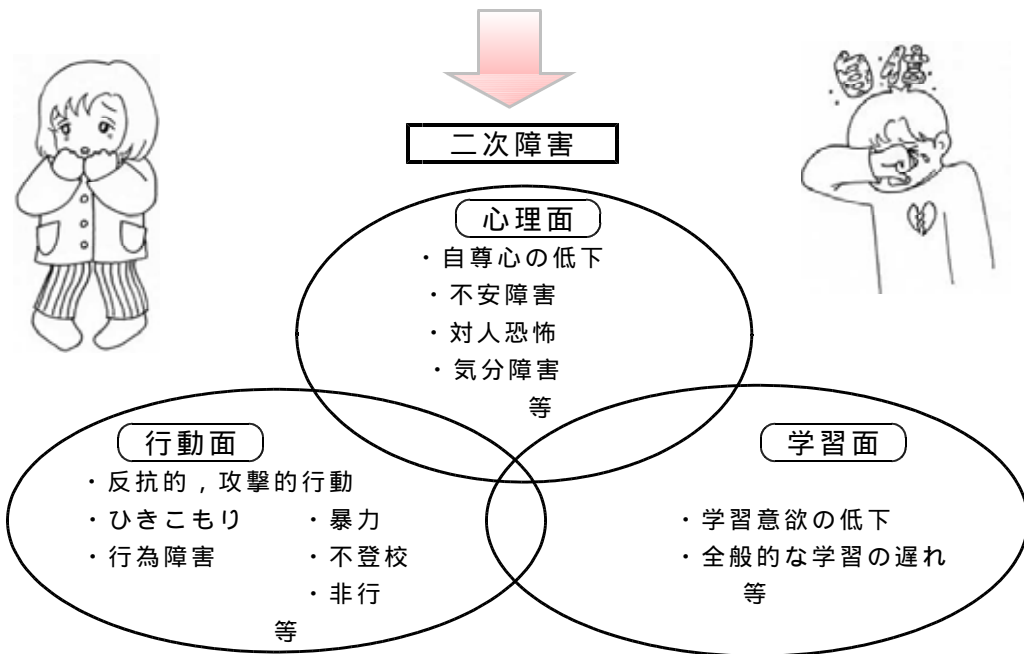
推
論

- ・過去の経験を生かして考えたり、筋道立てた話をしたりするのが困難である。
- ・論理的な思考が苦手な図形や数量、文章題の意味を取り違える。
- ・一度に複数の課題を与えられると混乱して課題解決ができない。

つ
い
て

Q 2 . LD によって起こる二次障害にはどんなものがありますか？

A . 二次障害とは、適切な対応がなされなかったために、自信や意欲を失ったり、自己評価を下げたりすることで、その結果、不登校や無気力になったり、暴力行為などを起こしたりすることもあります。



子
供
に
つ
い
て

Q 3 . LD の子供をどのように受けとめればよいですか？

A . 個別に話す場を設定しましょう。

- ・保護者のしつけが原因ではありません。
- ・愛情不足が原因ではありません。
- ・LD の特徴的な行動は、なまけからくるものではありません。

一人一人が活躍できる場を設定しましょう。

- ・できないことを探すのではなく、できることを見つけていき、成功体験を積みませ



Q 4 . 聴覚の認知に困難がある子供には、どのような特徴がありますか？

A . LD児の中には、聴覚障害でないが、聴覚の認知(聞いて理解するプロセス)がうまくいかない子供がいます。

聴覚の認知に困難のある子供にとっては、音や声がみんな同じ大きさに聞こえてしまいます。そのような場合、どれが大事な情報であるのかがわかりません。

Q 5 . 視覚の認知に困難がある子供には、どのような特徴がありますか？

A . LD児の中には、視覚障害でないが、視覚の認知(見て理解するプロセス)がうまくいかない子供がいます。

視覚の認知に困難のある子供にとっては、全てのものが同じ強さで目に飛びこんできたり、教科書の文字を追えないことがあります。

Q 6 . LDの子供へは、基本的にどのような対応をすればよいですか？

A . LDの子供へは、次のことを大切に対応していきましょう。

指導上の留意点

- ・子供の困っている状態、あるいは教師自身が困っている状態にまず目を向けてみましょう。
- ・子供のよい所を探し、周囲の子供たちにも認められる機会を計画的に作りましょう。

LDの子供への支援のポイント

- ・やる気を育てましょう。
- ・できることから始めましょう。
- ・できたことはほめましょう。
- ・言葉の指示が理解しやすい子供と視覚的な指示が理解しやすい子供がいることを理解しましょう。
- ・行動に責任をもたせましょう。
- ・困難を乗り越える態度を身に付けさせましょう。
- ・積極性を育てましょう。

学級での支援のポイント

- ・よいところを見つけ合うような支持的風土をつくりましょう。
- ・全ての児童生徒が大切にされていると実感できる学級経営を大切にしましょう。その様な教師の姿勢が、学級の子供に必ず反映します。
- ・一人一人の個性を認め合い、よさを生かす指導を心がけましょう。



Q 7 . 聞くことが苦手な子供には、どのような配慮をすればよいですか？

- A . 正面から目の高さで名前を呼びかけたり，肩に手を置いたりして，注意を引き付けてから話しかけるようにしましょう。
指示は具体的な言葉で短くはっきりと。一度に多くのことを指示しないことも大切です。また，復唱させたり，メモを取らせたりすると効果的です。

Q 8 . 話すことが苦手な子供には、どのような配慮をすればよいですか？

- A . 正しい言葉で話しかけたり，時には復唱させたりして文を意識させるようにしましょう。
「はじめに」「次に」「最後に」などの話し方のパターンを練習させることも効果的です。
朝の会等を利用して話す機会を設けます。できるだけ話しやすい話題を取り上げるようにしましょう。(好きなもの，昨日のこと等)

Q 9 . 読むことが苦手な子供には、どのような配慮をすればよいですか？

- A . 文字を大きくしたり，文節ごとに分けて書いたり，工夫をしましょう。
読む部分にラインを引かせたり，指で追いながら読ませたりしましょう。

Q 10 . 書くことが苦手な子供には、どのような配慮をすればよいですか？

- A . 書く文章を声に出して読みながら書かせましょう。
書く分量を少なめにして，課題への抵抗感を減らしましょう。
ワープロソフトなどを利用する方法もあります。

Q 11 . 計算することが苦手な子供には、どのような配慮をすればよいですか？

- A . 具体物や半具体物をひとつずつ押さえながら数えさせる方法もあります。
書きやすいノートやプリントを用いましょう。(罫線やマス目の入ったもの)

Q 12 . 推論することが苦手な子供には、どのような配慮をすればよいですか？

- A . 問題文を図や絵で表したり，自分の言葉で説明したりする方法が効果的です。
複雑な問題文は短く簡単な文になおしたり，考えやすいように内容を整理して示したりして，理解を助けましょう。



Q 13 . 授業ではどのような配慮をすればよいですか？

A . 授業では，次のようなことを心がけて支援していきましょう。

指示の出し方の工夫

話し手に注目させてから，短い言葉で具体的に伝えましょう。

指導内容の工夫

指導内容はできるだけ細かい段階に分け，子供にも見通しをもちやすいようにして指導しましょう。(スモールステップ化)

効果的なほめ方，しかり方

今までの生活経験でしかられたことが多い子供がいます。できるだけほめて，自分に自信をもたせましょう。

Q 14 . 環境づくりで大切なことは何ですか？

A . 環境づくりでは，次のようなことに配慮しましょう。

周りの子

- ・「一人一人に得手不得手があり，配慮し合うことが大切だ」ということを話しましょう。その上で，つまづいている点を具体的に知らせ，本人が改善のために努力していることも話しましょう。
- ・困っている人は，誰でも助けを受けられることも伝えましょう。

学級づくり

- ・友だちのよいところをたくさん見つけられるように工夫しましょう。自分ができないことに対しては，先生や友だちが助けてくれるという信頼感も育てましょう。
- ・「間違いや失敗は誰にもある」ということを話し，間違いや失敗に対して笑ったり，中傷したりすることがないようにします。そうすることで，何でも話せる学級の雰囲気をつくりましょう。
- ・自分に対して肯定的なイメージをもてるよう，成功体験を重ねていけるよう配慮しましょう。そのためには，誰もが活躍できる場を工夫してつくるのが大切です。

座席の位置

- ・机間指導の際に，支援をしやすい場所も考慮してあげましょう。
- ・手本になる子供や，支援をしてくれる子供がいれば，近くの座席に座らせるよう配慮します。

